

K131.71

4

4a

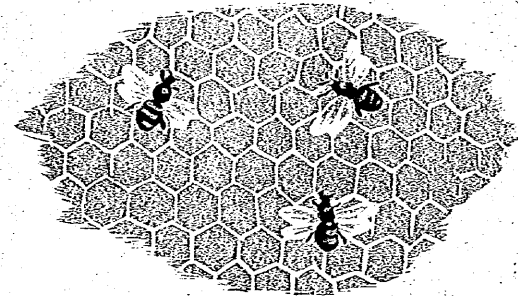


4

工 木 之

四

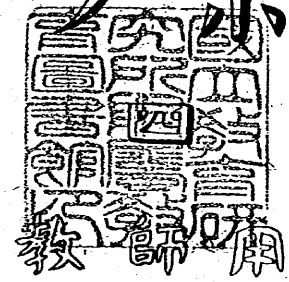
教 師 用



文 部 省

K131.71  
4  
4a

工 本 ン



文 部 省

文部省調書  
三三六  
不  
意  
贈

## 目 録

第一教材一覧	1
第二教材解説	3
1. ゑんそく	3
2. 富士山	5
3. 小鳥の家	7
4. 秋のけしき	9
5. ひかうき	11
6. ポスター	13
7. 手紙さし	15
8. はり紙もやう	17
9. ちょ金箱	19
10. ある日のゑにつき	21

11. だるまさん	23
12. 家	25
13. 小鳥	27
14. 小鳥のもやう	29
15. 冬のけしき	31
16. きげん節	33
17. さうがん鏡	35
18. おひな様	37
19. おせつく	39
20. 勇ましい兵たい	41
21. 勤ぶつ	43
22. 學げいくわい	45

第一 教材一覽



月別	題名	法	時限
十月	1. ゑんそく	思想的表現	一時限
	2. 富士山	思想的表現	一時限
	3. 小鳥の家	思想的表現	一時限
十一月	4. 秋のけしき	寫生的表現	一時限
	5. ひかうき	模作的表現	一時限
	6. ポスター	圖案的表現	一時限
	7. 手紙さし	模作的表現・思想的表現	二時限
十二月	8. はり紙もやう	圖案的表現	一時限
	9. ちよ金箱	思想的表現	二時限
	10. ある日のゑにつき	思想的表現	二時限
	11. だるまさん	寫生的表現	一時限

一月	12. 家	思想的表現	二時限
	13. 小鳥	寫生的表現	一時限
	14. 小鳥のもやう	圖案的表現	一時限
二月	15. 冬のけしき	思想的表現	一時限
	16. きげん節	思想的表現	一時限
	17. さうがん鏡	思想的表現	二時限
三月	18. おひな様	模作的表現・思想的表現	二時限
	19. おせつく	思想的表現	一時限
	20. 勇ましい兵たい	思想的表現	一時限
	21. 勤ぶつ	思想的表現	二時限
	22. 學げいくわい	思想的表現	一時限

## 第二教材解説

### 1. 忍んそく 思想的表現 一時限

**要旨** 楽しかつた遠足の或場面を畫かせ、人物並びに景色の表現に習熟させ、その日の喜びを再び味はせる。

學校に於ける兒童の最も楽しい團體生活の一つである遠足を描寫の對象とすることは、兒童に豊富な表現資料を得させると共に、興味ある生活表現をさせることになる。この意味に於いて本教材を選択したのである。

國民學校に於ける遠足は、遠足自體が重要な學習生活なのであるから、楽しい中にも立派な團體的な生活が出来るやうに導かなくてはならない。従つて圖畫の表現の上にも立派な團體生活の態度が表はれることが望ましい。「ヨイコドモ」十一月教材の「エンソク」と連絡して取扱ふ。

**準備** クレヨン・畫用紙・鉛筆・參考作品等

**指導** 1 教科書本圖は兒童等が二人の先生に引率されて、行儀よく竝んで、しかも楽しさうに湖畔を歩いてゐる情景を畫いたものである。

參考圖は目的地の丘の上で休憩してゐる有様を畫いたものである。

2 教科書の本圖並びに參考圖を十分鑑賞・觀察させて、人物や風景の表現に注意させ、準備した參

考作品等も十分鑑賞させる。

一方、子供等が最近遠足したことに就いて出發から歸宅までのことを順々に問答して、どんな所へ行つてどんなものを見たか、又どんな楽しみがあつたかといふこと等を思ひ浮かべさせ、その中で最も印象の強かつたことで、しかも描寫するのに都合のよい場面を子供に選ばせて畫かせる。

表現は集團的人物の取扱ひが主となる場面が多いので、人物の配置、環境との關係等につき適當な指導をする。

3 各自の表現した作品は、教師が個別的に批評をしてやるほか、兒童相互にも鑑賞させ、その表現されてゐるものに就いて十分味はせる様にした。尚、多少その良し惡しに就いても次第に見分けがつくやうに指導することが必要である。

**備考** 1 この教材は遠足の記憶を畫かせるのであるから、各學校で遠足を行つた直後の週に取扱ふやうにする。

2 遠足に就いては特に軍事取締規則に注意せねばならぬ。

## 2. 富士山 思想的表現 一時限

要旨 富士山を畫かせて思想表現に習熟させ、崇高な富士山に對する敬愛の念を深める。

富士山は日本の山の中でも代表的なものであり、又日本の國土を代表する程の靈山である。従つて富士山の見える地方に於いても、見えない地方に於いても、その見たことのあるなしに拘らず、日本國民が等しく憧れるこの山を表現の對象とすることは意義深いことである。

本教材は「うたのほん」の「富士の山」と思想的に連絡して生活の擴充に資する。又「ヨイヨドモ」十一月教材「エンソク」及び前教材「ゑんそく」とも内容的に連絡して指導する。

準備 クレヨン・鉛筆・畫用紙・鑑賞指導用掛圖・色彩指導用掛圖・參考品等

指導 1 教科書本圖は三島方面から眺めた富士山である。用筆は一見非常に荒く感じられるが、しかしよくその大きさとけだかさがあらはれてゐることに注意させる。

參考圖左上の圖は富士山の遠望を畫いたものである。その下は三保の海岸から眺めた富士山の姿であり、右上は芦の湖から遙かに望んだ富士山で、その倒像が湖水に映じてゐる。その下は夏の富士山を畫いたもので、中央は雲海に登ゆる富士山である。

2 本教材は適當な距離から富士山をみることの出来る地方に於いては寫生させるがよい。寫生させることの出来ない地方では、富士山を一度でも見たことのあるものはその印象によつて思想的表現をさ

せる。一度も見たことのない兒童も富士山に對して憧れを持つて居り、富士山の繪畫や寫眞等は大抵見てゐると思ふからそれを思ひ出させ、教科書の本圖や參考圖並びに鑑賞指導用掛圖・色彩指導用掛圖・參考品等によつて富士山の感じを想像させ、更にその姿の美しさや、四季による變化等を話合つて表現させる。

3 富士山のもつ大きさ、高さ、廣さの感じを出すためには、粗暴に陥ることなくしかも大膽にのびのびと畫くやう指導する。

4 富士山とその周圍の山の遠近の關係を注意して表現するやう指導する。

5 作品の鑑賞は特に富士山の心持の出でゐるものを標準として取扱ふがよい。

備考 1 富士山は日本を代表する程の山で外國人の中には日本と言へば富士山を聯想するものが多い程である。雄大で姿の美しいこと、殊にすわりのよいことなどがこの山の特色である。

2 富士山を畫くときは、單なる山としてではなくよく玩味し崇拜して畫く氣持がほしい。一般に高い山は崇高な莊嚴な感と與へるものであるが特に富士山はその感じを重んじて畫くやう導くべきである。

### 3. 小鳥の家 思想的表現 一時限

要旨 きびがらで小鳥の家を考案して作らせ、立體的構成に馴れさせる。

小鳥は大人のみならず子供も特に好むものであるから、この可愛い小鳥の家を作ることは、児童の興味の上からも適當であり、又これをきびがらによつて作ることは児童の程度にも適合してゐるので、この教材を採擇したのである。

本教材は教科書にあるものを模倣させるのではなく、児童自身の考案に基いて作らせて、立體的構成・創造力の養成をするのである。

本教材は、思想的には後に出て来る小鳥の寫生、小鳥の圖案などにも關聯するものであり、製作技法上からは「むしかご」其他のきびがらによる構成のものと同關して指導することが大切である。

準備 工具 唐鉢・ものさし・特にきびがらを切る工具があればそれも用意させる・鉛筆・下圖用紙

材料 きびがら三四本（色と本数は児童の好みによつて選擇させてもよく、大體教師の方で定めて與へてもよい）・ひご少量

指導 1 教科書本圖は、きびがらによる小鳥の家の組立て方と、出來上りを示したものである。即ち1は小鳥の家の床になる部分と後の壁とを組立てたもの、2は更に左右の壁も取附けたもの、3は更に梁を入れたもので、その上方は屋根の作り方を示したものである。4は小鳥の巢は多く高い所に作られ

る場合が多いので、この臺の構成を示したものである。5は全部を組立てた出來上りの圖である。以上の接合は總てひご又はきびがらの皮によつてするのである。

2 參考圖は、何れも實際の戶外に作つた小鳥の家を現はしたものである。右の圖は孔が一つだけある鳩などの家で、中央は同じやうな形ではあるが、前と後を全く開いて、唯ここに憩ふだけに作つた小鳥の家である。左下の圖は右の圖と同じ様に、出入口が一つの家であるが、下の方の形を變へたものである。左上の圖は木の用ひ方も異なつてゐるが、出入口も上と下との兩方につけたものである。

3 小鳥の家を作るには、先づ小鳥にはどういふ小鳥があるかを擧げさせ、次に教科書の本圖參考圖などによつて小鳥の家をきびがらで作るにはどういふ風にして作ればよいかを理會させ、次に各自の作りたい小鳥の家を考へさせて、下圖用紙にその要領を畫かせ、各種の材料を必要な寸法に切斷させて順序よく構成させる。

備考 1 一般に小鳥の家は、小鳥そのものの習性によつて自ら異なるものであつて、燕のやうに唯一枚の板を取附けておくだけでも十分自ら巢を作るやうな鳥もあるが、しかし鳩の如く、かういふ箱の家を作つてやることによつて、そこに常に宿るものもある。



#### 4. 秋のけしき 寫生的表現 一時限

**要旨** 秋の景色を寫生させて、自然の美しさを味はせ景色の寫生的表現に習熟させる。

秋は暑からず寒からず、空気もすがすがしく、しかも野山は美しく色づいてくるので、風景寫生には最もよい季節である。この美しい自然を味はせ風景寫生に習熟させるのが本教材のねらひである。而も寫生することによつて一層自然の美しさを理會させ、更に自然を愛し、自然に関心を持つやうに導くのである。

本教材は一年の「アキノケンキ」本學年の「春が来た」「學校のきんじょ」「富士山」等と關聯を保ち、更に「ヨイコドモ」下の「稻カリ」「コウエンノシバフ」などともよく考へ合せて學習させる。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・エノホン掛圖

**指導** 1 教科書本圖は秋の景色を寫生したもので近景には桑畑や柿の木や人物や家屋を取入れ又水田の平地を畫き、遠景には比較的近い山と遠い山と空とを適當に畫き出したものである。

参考圖は秋の公園を畫いたもので、畫いてあるものが少い割に、秋の感じが濃厚に出てゐる點を鑑賞させるがよい。

エノホン掛圖に示したものは、秋の景色の着色寫眞である。秋の景色の美しさを説明するに用ひる。

2 本圖・参考圖・エノホン掛圖その他の參考作品を鑑賞させ、屋外に於いて寫生する場合の注意を

與へ、寫生そのものの要領のみならず兒童管理の上から色々指導して、寫生する場所に連れ出すことが必要である。

3 寫生地には各自が畫き度いと思ふ場所をそれぞれに選擇させ、景色の美しさを味はせ思ふ存分に畫かせる。

4 寫生中は各自それぞれの場所で畫いてゐるのであるから指導と管理をかねて各自の所を巡視し、管理上から見て不適當な場所で畫いてゐるものはその位置を變更させることにする。

5 兒童の描寫に間違ひがあれば指示して直させる必要はあるが、教師の概念的な考から簡單にそれは間違であるときめず一度兒童の席についてその場所から靜にその描寫の對象をながめた上、素直に對象から受けるものを畫き出させるやうにする。

**備考** 1 多數の者が同時に寫生に出かけるのであるから餘り遠い所に出かけず、比較的學校の近くで秋の景色らしい感じを把握させることの出来る所を選ぶやうにする。

2 戶外寫生に就いては特に軍事取締規則に注意せねばならぬ。

## 5. ひかうき 模作的表現 一時限

**要旨** きびがらと中厚方眼紙を用ひて、模型滑空機を製作させ、材料の正しい用法を知らせ、國防思想の涵養に資する。

模型滑空機は兒童が幼い時から興味を持つものである。かかる教材を製作させることによつて初歩的な航空理論や製作技術を體得させることはやがて合理創造の精神を育成することにもなり、將來航空日本を背負つて立つ航空學者や技術者などの人材を養成する基礎にもなるものである。

本教材は前學年の「ヒカウキ」の發展したもつて指導する。

**準備 工具** 唐鋏・ものさし・竹筧又は兩刃の小刀・針及び糸等

**材料** きびがら・中厚方眼紙・色紙・鉛筆・糊・古釘(3.5cm 位のもの)等

**其他** 標本・エノホン掛圖等

**指導 1** 教科書の本圖は模型滑空機の出來上りを示したもので、參考圖はそれを作る材料と各部の展開圖とを示したものである。

2 此の模型滑空機を作るには參考圖により、圖の一番上にある如くきびがらに竹筧又は兩刃の小刀によつて主翼を取附ける切込の線を入れる。この傾斜は約二度乃至三度を適當とする。水平尾翼をとりつける部分は、尾部から圖の如く平に切込む。垂直尾翼は之と直角にきびがらの中央から切下げる。

次に主翼を圖の上から二番目に畫いてある如く1cm 目の方眼紙に畫いて之を切抜き、補助翼を適當

な分量で切斷して折曲げるやうにし、且、日本の航空機の印として赤い圓形の薄紙を兩面より貼りつける。

次に垂直尾翼と水平尾翼とを圖の三番目に示す如く作る。水平尾翼には昇降舵を、垂直尾翼には方向舵の部分を圖の如くつける。

圖の一番下にある2cm 幅の紙は機首に巻きつけるもので、右の方に示してある釘は機體の頭にさして重心の位置を調整するものである。

以上の諸部分が出來たならば本圖の如く組立てる。組立てに際し最も注意すべきは重心の位置である。重心は出來上つたものの主翼の翼弦の前縁より三分の一の點に來るやうにする。その爲には針に糸をつけたものをその位置に正しく垂直につきさして左右並びに前後の重心關係を測定し加減するのである。重心は主翼も取りつけて測定してその點に主翼々弦の前縁より三分の一のところをもつてくる。従つて機首に釘をさし紙をまきつけて重心が前記の位置に來るやうに巻きつける紙の分量を加減する。

3 機體が出來上つたならば、之を飛ばす方法を指導する。飛ばし方は第一學年でも示してあるやうに機首を餘り高くさし向けるよりは、寧ろ水平より少し下向き位に推すやうにして飛ばす方がよい。

**備考 1** 模型滑空機各部の名稱は第一學年の「ヒカウキ」のところで示した如く、なるべく兒童用語で知らせる。

2 此の程度の學年では航空理論はまだ授けなくてよいが、製作を通し又掛圖等によつて航空思想の喚起には力めなければならない。

## 6. ポスター 図案的表現 一時限

要旨 ポスター圖案を畫かせて、形や色彩の圖案的構成を練習させる。

本教材は兒童に解り易く表現し易い題材を、兒童生活の中から選り出して、ポスターとして表現させるのである。教科書には「先づ工夫」「體が第一」と云ふ二つの標語を選んでそのポスター圖案を示してあるが兒童にはこの標語で教科書とは異なつた表現の仕方を工夫考案させてもよく、又別の標語を選んで畫かせてもよい。

ポスターは近時種々の方面に利用され國民の生活と離るべからざるものとなつて居り、これを圖案教材として見ても兒童に興味もあり、圖案構成練習としても都合のよいものであるから、低學年から上級に至る迄幾つかを配當することにした。その最初のもが本教材である。

「先づ工夫」と云ふのは工作學習などに深い關係をもつてゐるものであり、「體が第一」と言ふのは體鍊科、特に體操遊戲などに大なる關係を持つてゐるものであるから、是等の學習とよく連絡を保つて指導する必要がある。

準備 色紙・クレヨン・鉛筆・臺紙（羅紗紙、畫用紙又はマニラ紙等の如き中厚紙）・唐鉄・ものさし・糊・糊下紙・參考ポスター

指導 1 教科書本圖の右は或部分はクレヨンを用ひ、或部分は色紙を用ひて表現したもので、子供が

積木を用ひて色々な形を工夫し構成してゐる有様を示したものである。積木を表現するに色紙を用ひたのは如何にも積木らしく表現し易いからである。「マツクフウ」といふ文字は、色紙を適當な幅に切つて貼り、その上に黒のクレヨンを用ひ圖案的な文字で書いたものである。下の方の黒と黄の色紙は全體の調和をとる爲のものである。子供の姿は全部クレヨンで現はしたものである。左はラジオ體操をしてゐる子供を現はして、「カラダグダイー」の標語の内容を生かしたもので、下の紫色の色紙は色と形の調和をよく考へて貼つてあるのである。

2 參考圖の右も子供がラジオ體操をしてゐる所で、左は子供が砂場で色々な土地の形を工夫してゐる情景を現はしたものである。どちらも色紙とクレヨンとを併用して表現してある。

3 本教材の指導は、先づ教科書の本圖參考圖に就いて説明し、ポスターが宣傳布告用として盛んに使用されて居る事を呑みこませ、教科書にあるやうに「先づ工夫」「體が第一」の標語で畫くか他の標語にするかを決定し、ポスター圖案と普通の繪と異なるところを二年生に解る程度に指導し十分案を練らせてから任意に畫かせる。

- 備考 1 色彩の調和、形のよしあし、物の釣合ひ等を個人的に指導する。
- 2 標語は都合によつては教師が適切なるものを考へてやらせるもよい。
- 3 出來たポスターは適當な場所に掲げて實際にポスターとしての役に立たせる。

## 7. 手紙さし 模作的表現・思想的表現 二 時 限

**要 旨** 手紙さしを作らせて袋状をしたものの構成法を會得させる。

本教材は第一學年の「イロガミ入れ」の延長として取材したものであつて、袋の作り方は模作的表現をさせ、細部の形や裝飾等は思想的表現をさせるのである。

**準 備 用 具** 唐紙・ものさし

**材 料** 中厚紙（羅紗紙、畫用紙、マニラ紙等）・色紙・クレヨン・鉛筆・糊・糊下紙

**指 導** 1 教科書本圖は、左が手紙さしの出来上りの圖である。即ち比較的横廣い手紙さしであつて、兩側には右に示す圖のやうなマチを入れて貼りつけて作ったものである。マチは右上の圖のやうな梯形を矩形から作り、中央を折曲げて、その折曲げた所から左右に各々同じ寸法に印をして、右下の圖の様に折返して作るのである。その兩側は廣い糊代となり、且、裝飾となる部分である。尙、中央上下の裝飾は色紙とクレヨンとで構成したものである。

2 参考圖は同じく手紙さしであるが、これは手紙を入れる部分の前の紙を曲線に切取つて、低くしたものである。兩側に入つてゐるマチの形は本圖のものとは違ふが、同じやうに折疊んで作ったものである。

3 本圖及び参考圖に就いて以上のやうな説明をなし作り方を十分理會させ、手紙さしの上縁・前縁

の形や、マチの裝飾的な形、上に貼つたり畫いたりして現はす模様などにつき、工夫すべき要點を知らせ、各自に十分の工夫をさせてから製作させる。

4 作品は各自持ち歸らせて實際に之を使用させる。壁面か柱か本箱の横などの釘で止めても差支ないところに釘で止めておけばよい。

**備 考** 1 自分で工夫して自分で組立てて作ったものが一般の大人の人々が作った所謂實用品と同様に使用出来ることは子供の非常なよろこびであると共に、自分が作ったといふ感じから特に之を愛用することになる。

2 本教材は一般の實用的なものがどうして作られてゐるかといふことの理會の一助ともなるのである。

3 材料の中厚紙は新しい紙を用ひなくても工夫によつて氣持のよい手紙さしが出来るのであるから利用の出来る材料は古いものでも利用するやうに指導することも大切である。

## 8. はり紙もやう 圖案的表現 一時限

**要旨** 色紙を用ひて圖案的表現をさせ、色や形に就いての感覺的、思想的表現の修練をさせる。

この教材は色紙を主とし、クレヨンを補助的に用ひて、動物・植物又は幾何的な模様などを、圖案的に形も色彩も美しく表現させる教材である。之を教材系統から見ればポスターのやうに實用的色彩を十分に帯びたものではなく、唯色や形の美しさを表現させることを目的として課するものである。併し幼い子供のことであるから、十分なものを要求することは困難であらうから或程度で満足して、寧ろ動物とか、植物とか、表現の對象のもつ本質的な感じを十分に透刺と出させるやうな態度で指導することが大切である。

**準備 工具** 唐紙・ものさし

**材料** 色紙・臺紙・クレヨン・鉛筆等

**指導** 1 教科書の本圖右上は、小鳥を圖案的に表現したもので、體の割に頭の大きなこと、羽が短かくすんぐりとしてゐること、又嘴や肢や羽の線など他の色との關係を考慮して畫いてあることなど、實物から來る感じを感覺的に捉へて表現したものである。その下は金魚を缺で切つた方がよい感じになる所は缺で切り、ちぎつた方がよい感じになる部分はちぎつて構成したもので、色彩・形體に意が用ひられてゐる。左の葡萄の葉と實は、色紙を葉の部分ちぎつて現はし、實の部分は切つて現はし、葉の

葉脈や蔓などをクレヨンで現はしたものである。

2 參考圖右上は二つ巴形を黒と鼠の二色で現はし、地色の白と相俟つてそこに美しい無彩色の快調を現はしてゐる。右下は長方形の紙を對角線に切つて、色を面白く排列することを考へながら六角形にまとめたものである。左上は矢羽根四つを中央に集めたもので、その下は黒と鼠の圓形の紙を何れも中央から二つに切斷して、之を恰も風車のやうな感じに排列したものである。

3 本教材の指導は、先づ本圖及び參考圖に就いて前述のやうな説明をなし、鳥や魚や植物又は幾何的な模様などの中から、各自如何なる對象を表現するかを定めさせ、形や色の構成を如何にするかを考へさせてから、兒童相應の表現をさせる。

**備考** 1 色紙の數や分量などは、各兒童に大體同様のものを與へて、それ等のものの中から必要なものを使用させるやうにすることがよい。餘つたものは又次の學習に使用させる。本教材は圖案的表現教材であると同時に、色彩指導上の具體的なよい教材である。従つて標準色又は之に近い色彩の色紙を使用させて、その美しさの表現をさせる。

2 兒童は參考圖にみるやうな、幾何的模様も大いに好むものであるから、あまり鳥や魚や植物などの教材のみ取らせる態度は探らない方がよい。

3 圖案の指導にはなるべく多數の參考品を示すがよいから、有合せの掛圖や參考品を利用すると共に教師自身もなるべく具體的な作品を作つて示し、印象の強い指導法をすることが大切である。

## 9. ちよ金箱 思想的表現 二時限

**要旨** 方眼紙を用ひて貯金箱を作らせ、立體構成に習熟させると共に、貯蓄報國の精神を養ふ。

兒童は元來物を蒐集したり貯金したりすることに、興味を持つものである。貯金箱を作らせることによつてこの自然である生活を善導し、一層「皇國の爲に、お互は貯金する必要がある」と言ふ事を認識させると同時に、展開圖の畫き方、讀圖、並びに立體構成の力を養ひ、更に圖案的表現に習熟させる意味に於いて、特にこの教材を採つたものである。

方眼紙を用ひて立體を構成する教材は既に數回練習させて來て、大體その方法を會得して居ることであるから、本教材は教科書の作例を參考として兒童各自の工夫考案で思想的表現をさせるのである。

**準備 工具** 唐鈔・ものさし

**材料** 1cm目の中厚紙の方眼紙・下圖用紙・糊・糊下紙・色紙數種・鉛筆・クレヨン

**其他** 出來上り標本・各種の貯金箱の實物

**指導** 1 教科書本圖は、方眼紙に貯金箱の展開圖を畫いたものと、それに模様を畫いて組立てた出來上りの圖と、貯金箱と言ふ文字の圖案的表現の例を示したものである。展開圖は 23cm 平方の方眼紙を使用して、角邊の大きさ 5cm 角で、高さ 8cm の貯金箱を丁度よく構成するやうに展開圖を畫いたものである。點線は折曲げる部分を示したもので、これは鉄の背などで筋をつけて曲げるのである。この展開圖によつて作れば、中央が上になり、底は別に左下の部分から 7cm 平方のものを切取つて特に貼りつ

けることになる。

2 參考圖は、貨幣を入れる部分の面が傾斜してゐる種々複雑な貯金箱の展開圖と、その出來上りを示したものである。

3 貯金箱を作らせるには、國民科修身と相俟つて先づ「一億一心」とか「百億貯蓄」とか言ふやうな意味を説明し、全國民が貯蓄することによつて國に報ずることが出来るものであることをよく諒解させ、教科書の本圖及び參考圖の説明をなし、出來上りの標本も示して貯金箱は如何に構成すれば出来るかに就いて、大凡の見當をつけさせると共に讀圖力を養ふ。

次に色々の形をした實物の貯金箱を示し、又各自の知つてゐる貯金箱の形も思ひ出させ、それを方眼紙で作るにはどんな形にしたらよいかを考へさせ、下圖用紙に大體の形を畫いて見させて案を練らせ、想が纏つた所で方眼紙を與へて之を正しく製圖させる。製圖の仕方に就いては具體的に指導する。

次に切斷すべき部分を鉄で切斷させ、折曲げる部分には筋をつけ、色紙又はクレヨンによつて適當に裝飾をさせてから、組立構成をさせる。

**備考** 1 出來た作品はなるべく家庭に持つて歸つて實用に供させる。

2 兒童に示す貯金箱の實物は紙で作るに適した形のものでなければならない。複雑な曲線形のは紙で作ることは困難であることも會得させるがよい。

## 10. ある日のゑにつき 思想的表現 二時限

**要旨** 児童自身の一日の生活を、その時間的経過に従つて、主だつた幾つかの場面を繪巻物風に畫かせて、思想表現の修練をさせる。

思想的表現の中には一つの場面を想ひ出させて表現させるものや、色々の寫生的基礎に基いて構成表現させるものなど種々あるが、本教材は一つ一つの場面の表現は前者と同じであるが、幾つかの場面の時間的経過を追つて關係的に表現させるところに又別な意味が生じて來るのである。又繪と文章との綜合的表現をさせる點にも本教材の特色がある。この種の教材は第一學年の「モモタラウ」や、第二學年の「うらしま太郎」などの教材と共通點のあるものである。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・エノホン掛圖・參考作品等

**指導** 1 教科書本圖は、朝起きて戸外で洗面をしてゐるところと、それが終つて兄さんや弟と共に、ラジオ体操をしてゐるところを一畫面に表現したもので、朝の光を浴びたすがすがしい氣分をも書き現はしてある。

參考圖の右上は登校するところ、左上は學校で友達と共にボール遊びをしてゐるところ、右下は教室で勉強してゐるところ、左下は學校でお掃除をするためバケツや箒を運んでゐるところ、中央は家庭で夕食をしてゐるところを畫いたものである。

2 エノホン掛圖に示したものは「或日の繪日記」の繪巻の一部分を出したもので、詞書と繪とを交互に出す形式のものである。

3 教科書の本圖、參考圖並びにエノホン掛圖の説明をして、よく繪を觀察鑑賞させ、他の參考品等も示して繪日記の表現の仕方、繪巻にまとめる方法に就いて理解させる。

4 各自に自己の生活の中、特に繪として表現するのに都合のよい一日を選ばせ、その一日の生活の有様を次々と思ひ起させ、如何なる場面を如何に表現するか、又どう言ふ文章をどんな風に入れるか等に就いても十分考慮させた後畫かせる。

**備考** 1 本教材は繪巻物にしないで、一畫面に幾つもの場面を畫いてまとめさせてもよい。

2 幾つかの繪が、お互に餘りにくつき合ひ過ぎてゐると、一つの場面の様に誤られ易いから、繪と繪の間隔を適當にあげ、順序よく配置し亂雑にならぬやうに適當に表現させる。

3 人物描寫に就いては、既に前に學習したのであるが、頭、胴、脚、手等の割合に就いて、大體の形を整へさせるやうに注意を喚起しておく必要がある。唯そのために、人物を描くことは非常に難しいものであるかのやうな感を與へたり、表現が萎縮したりしないやうに指導する必要がある。

## 11. だるまさん 寫生的表現 一時限

**要旨** 玩具を寫生させて、寫生の興味を深め、觀察力を養ふ。

玩具は子供等にとつては、自分を育ててくれた最も親しみ深いものの一つである。その過去の思ひ出を辿らせてそれを畫くことによつて、情操の陶冶をする。又玩具は兒童の興味をひくとともに單純な形態や色彩のものが多いから、それ等のものの中から表現題材を選ぶことは、寫生への興味を深めるに都合がよい。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・玩具・寫生臺

玩具は各種のものを色々準備して、各分團毎に異なつたものを畫かせるもよく、一種か二種位の玩具で、最も兒童に親しみ深い、しかも表現に都合がよいと思はれるものを準備して、之を畫かせるもよい。

**指導** 1 教科書の本圖はだるまを寫生したものである。參考圖の方の右上は張子の犬、その左は焼物の猿、その下は張子の牛、その下は春駒、一番下は木製の鳩笛を寫生したもので、かかる傳統的な郷土玩具は寫生材料として色も形も面白い上に洗練された郷土玩具のよさを味はせることに於いて有意義なことである。併し實際兒童に寫生させるものは必ずしもかかる傳統的なものとは限らない。現代の兒童のもてあそぶものを畫かせてもよいのである。

2 教科書の本圖並びに參考圖の説明を兒童に解る程度にして聽かせ、次に兒童によく見える様に數

箇所に置いた玩具の形や色をよく觀察させ、大體どういふ位置にどの位の大きさに畫けばよいかを考へさせ、一應黑板上に教師が畫面の大きさと中に畫くものの大きさとを比較することの出来る様な圖を畫いてみせ、構圖に就いて簡単な指導をしてから寫生させる。黑板上に示範する場合、教師はやはり實物の玩具を見ながら表現する態度をとつて畫いて見せる方がよい。

**備考** 1 簡単な寫生ではあるが、多少兒童の位置が變つても差支ない位の位置から畫かせるやうにする。

2 實際に寫生するに當つては、全體の形に注意して部分に捉はれないやうに指導することが大切である。



## 12. 家 思想的表現 二時限

**要旨** 中厚紙の方眼紙を用ひて、簡単な構造の家を工夫考案製作させ、家に就いての理解を與へると共に立體構成の能力を養成する。

本教材は「ふでたて」「でんしや」「ちよ金箱」などの如き方眼紙を用ひて立體を構成する教材の繼續であり發展である教材として指導する。

**準備 工具** 唐鋏・小刀・ものさし

**材料** 1cm 目の中厚紙の方眼紙・クレヨン・薄い色紙・鉛筆・糊等

**その他** エノホン掛圖・参考品

**指導 1** 教科書本圖は、家の展開圖を方眼紙に表はしたものと組立てて出来上つた作品の寫眞である。この家は入口が一つと、左右の壁面と後方の壁面に窓を持つてゐる家であり、屋根は庇を設けない切妻屋根である。入口や窓には中央から左右に開く開き戸がある。實線は切斷を示し、折曲げる部分は點線で表はしてゐる。土臺に取附けるために、この家の展開圖の下部に、それぞれの糊代をつけてあるが、これは外に開いて土臺の上に貼りつけるものである。

**2** 参考圖は平家と二階建の建築二種であり、左の平家は屋根を大きく急斜面にとつて、雪などのたまらないやうな構造のものであり、中央は二階建の所謂西洋建築風の陸屋根のものを示し、右は切妻屋

根の二階建の家である。

**3** エノホン掛圖は兒童の程度に應じた住宅、店及び官衙・銀行・會社等のビルディング建築の實物寫眞を掲げたものである。

**4** 教科書の本圖参考圖及びエノホン掛圖によつて家の形態や作り方の大體に就いて指導した後、各自に作り度いと思ふ家を構想させ、材料を與へて展開圖を畫かせる。展開圖が畫けたら、一應教師が點檢した後、切斷・折曲げ・組立て等をさせる。屋根や壁面やその他に色紙を用ひたり、クレヨンによつて色を塗らせたりするやうな場合は、組立てない前にやらせる。

**備考 1** 低學年の兒童であるから、あまり複雑な構造のものにしないやう注意することが大切である。

**2** 建造物の擬裝につき、迷彩と擬裝形の分割等のことに就いてふれるもよい。兒童の作る家そのものの擬裝もよいが、その作業を通じて實際の家に就いて國防上擬裝の必要なこと、家全體につたの這つた家があるが、最もよい擬裝となつてゐること、併し壁面と同時に屋根の色が問題であることなどに注意させる如きは、此の程度の兒童にも興味あることである。

### 13. 小鳥 寫生的表現 一時限

**要旨** 小鳥を寫生させて、動物描寫の興味を起させると共に寫生的表現になれさせる。

寫生の對象としては人物、動物、植物、風景等色々のものがあるが、その中でも小鳥は大人にも兒童にも非常に興味のあるものであるから、この小鳥の中で色彩や形體の特に美しいものを選んで、寫生的に表現させることにしたものである。

これ迄寫生的表現の對象として扱つて來たものは、果物や、花や、玩具や、人物、風景等の如きものであつたが、ここで初めて動物の寫生を課する譯であるから、特に動物寫生の場合の注意を興へる。

小鳥は、學校の飼育所で飼育してゐる小鳥を對象として寫生させるのがよいが、餘り動くものは寫生しにくいから、さういふ場合は小鳥の剥製を寫生させてもよい。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・寫生させる小鳥・參考作品等

**指導** 1 教科書本圖は、木の枝に止つてゐる鸚鵡（インコ）を寫生したものである。この鸚鵡は特に色彩の美しいものを選んで、小供等が見ても美しさを感ずるやうな描寫法によつて寫生したものである。

參考圖は、何れも子鳥の種々の姿態を素描で表現したものである。

2 小鳥の姿勢や各部分の形や色をよく觀察させると共に、鳥の各部分の名稱、例へば、頭・胴・翼・尾・肢・眼・嘴等の如きものを知らせる。一般に小鳥は頭の小さい割に首が大きいものであることや、

肢のついてゐる位置が一般にすつと後の方にあること、しかし全體を支へる爲にそれで丁度よい釣合ひを保ち、よい姿勢になつてゐることなどに就いて、實物と對照して寫生する時に説明する。

3 寫生的表現の指導に就いては、生きた鳥を對象とする場合と、さうでない場合とでは、かなりその表現態度を異にしなければならない。生きた小鳥である場合には、その主要な大體の形とその主要な色彩とを、短時間にスケッチ風に速かに捉へて確かに表現させるやうにする。對象が剥製の如く何時迄も靜止してゐるものである場合には、十分に落着いてその全體の姿勢を觀察させ、それぞれの部分の割合を全體の上からよく考へて、靜に表現させて行く。

4 多數の兒童が色々な方面から小鳥を觀察して表現するのであるから、實に様々な姿勢の小鳥が畫き出される譯で單なる器物などを畫いた場合よりも遙に興味がある。之を適當な場所に全部陳列してお互ひの鑑賞に資し、色彩の美しさ正しさといふこと、及び形が正しく表現されてゐるかどうかといふ事に就いて反省しながら觀察・鑑賞するやうに指導する。

**備考** 鸚鵡類の鳥には甚だ種類が多いが多くは色が美しく形も面白く、且、あまり動かないことが多いから、生きたまま寫生するには適してゐる。

## 14. 小鳥の もやう 圖案的表現 一時限

**要旨** 色紙又はクレヨンで小鳥の模様を表現させ、單獨模様及び二方連続模様の初歩的な構成練習をさせる。

本教材は前教材小鳥の寫生と關聯を保つて指導すること勿論であるが、圖案の資料として用ひる小鳥は、必ずしも前教材で寫生したものと限定する要はない。廣く兒童の知つてゐるもので興味あるものならば如何なる小鳥を用ひてもよい。

單獨模様や二方連続模様の構成に就いては、もつと學年が進んでから組織的な指導をするのであるが、本教材は本學年に於ける最終の圖案的表現の教材でもあるから、これ迄斷片的に扱つて來たものを、一應まとめる意味に於いて、比較的簡單な單獨模様と二方連続模様の構成に就いて初歩的な指導をするのである。

**準備** 色紙・クレヨン・鉛筆・畫用紙・唐鈔・糊・糊下紙・エノホン掛圖・其の他の參考品

以上の材料用具はこれだけ全部が入用と言ふ譯ではない。表現材料や表現方法に應じて、これ等の中から適當なものを用ひさせるのである。

**指導** 1 教科書の本圖は何れもちぎつた色紙を貼つて表現した小鳥の模様で、上は水の上を並んで進んでゐる鴨を二方連続模様にしたもの、下左は正方形の中に雀四羽を中心に向つて動的に排列した單獨

模様、下右は木に止つてゐる鳩二羽を向き合せて圓の中に當嵌めた單獨模様である。何れもそれぞれの小鳥の特徴を捉へてしかもこれを適當に圖案化して排列したものである。三圖とも美しい配色と相俟つて裝飾的な効果をあげてゐるものである。

參考圖は何れもクレヨンで畫いたもので、左上は正面向きの鸚鵡を、その下は横向きの紅雀を左右に連続させた二方連続模様で、右はかはせみを上下に排列した二方連続模様である。

エノホン掛圖に示したものは、何れも小鳥の模様である。

2 教科書・エノホン掛圖其の他の參考品等に就いて、單獨模様・二方連続模様の簡單な排列法を知らせ、同じ資料を使つても排列如何によつて圖案効果に著しい差を生ずることを具體的な例によつて理解させる。

3 前教材で寫生した小鳥又は自分の好きな小鳥を資料として、模様の單位となる小鳥をいろいろ畫いて見たり色紙で表現して見たりさせ、單位が決定したならば、單獨模様にするか二方連続模様にするかをきめ、排列・配色も考へて、ちぎつた色紙で表現するか切つた色紙で表現するか或はクレヨンで畫いて表現するかを定め任意に表現させる。色紙とクレヨンとを併用した表現をさせてもよい。

**備考** 1 模様の排列に就いては、抽象的な形式を知らせるよりも、具體例に就いて會得させる。

2 配色の際兒童はよく單位の一つづつの色を變へて表現することがあるが、あまり色を變へるとかへつてごたごたして、反復の美しさが無くなることを具體例に就いて理解させる。

## 15. 冬の けしき 思想的表現 一時限

**要旨** 冬の景色を畫かせて、寒い冬の景色にも特有の美しさのあることを認識させ、思想發表の修練をさせる。

冬の景觀として最も特色あるものは雪である。故に本教材では雪を主題とした冬の景色を畫かせたいのであるが、地方によつては雪の降らないところもあるから、さう言ふ所では冬枯れの樹木其の他の冬らしい景色を畫かせてよい。

雪景色には雪そのものの美しさがあるばかりでなく、雪の明かるさに對し家屋の軒下・樹木其の他が暗く見えて明暗の對照がくつきり出たり、雪のためにごたごたしたうるさいものが見えなくなつたりして、平常は平凡な景色も案外面白く美しく見えることのあること、又雪のない冬の景色は、黄土、茶等の如き暖い色に富み、落著ある美しさのあること等を、兒童に解る程度に認識させ、それを表現させる。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指導** 1 教科書の本圖は雪の降つた朝の一場面を表現したものである。平常見では平凡なところであるが、雪のために建築物やその附屬物・荷車等に面白い變化が生じ、通學途上にある二人の兒童と犬とを點景として全體の畫面を引き締めてゐる點に注意させる。

參考圖の左上は冬枯れの大きな樹木を中心とした雪景色を畫いたもので、遠景の水平な線と、樹木の

垂直や斜な線との組合せが此の圖の構圖の眼目となつてゐる。右下は家を主にし點景人物、鳥の垣根などをあしらつたもので、雪景色に特有な明暗の強い對照を扱つたものである。

2 教科書を鑑賞させ、兒童の日常接してゐる冬の景色と似てゐる點、違つてゐる點等に就いて問答し、冬の景色が春・夏・秋の景色と違ふ點に就いて、樹木の葉の落ちてゐるもののあること、草が枯れて黄土色や茶色がかつた色になつてゐること、いろいろなものに雪覆ひや霜覆ひのしてゐること、雪のふること、雪の時は家の軒下や樹木などが暗く見え、ごたごたしたうるさいものが見えなくて景色が單純にまとまつたものになること等に就いて知らせ、兒童が日常見てゐる冬の景色を思ひ起させ、それを如何に表現するかを考へさせてから描寫させる。

**備考** 1 題目を豫告して冬の景色を觀察させて置くもよい。而して此の觀察と表現と相俟つて、寒い冬の景色にも美しい一面のあることを認識させ、景色を鑑賞する態度を養ふやうにするがよい。

2 本教材は雪が稀に降る地方では、教材を繰替へて雪の降つた時に課すがよい。

3 此の程度の兒童は、或程度まで畫けば、之で出來たとして止めてしまふことが多いが、かかる場合教師は更に暗示を與へて修正をさせたり次々に適當なものを思ひ出させて畫き添へさせたりして表現の深化をはからなければならぬ。この事は單に本教材だけに必要なことではなく、全般に通じて必要なことであるが、兒童の表現力も漸次増して來た此の頃に於いて特に必要な注意事項である。

## 16. きげん節

思想的表現 一時限

**要旨** 紀元節の日に見聞したことを畫かせて、思想表現の修練をさせ、國民的情操を養ふ。

紀元節は我が國の重要な祝日であることは申す迄もない。此の重要な祝日に見聞したことを畫かせて、國民的情操を養ひ、表現力を養ふことは意味あることである。

紀元節の行事として、學校に於ける拜賀式、神社に於ける祭典、神社の參拜、民間に行はれてゐる建國祭、建國祭に附隨して行はれる諸種の催し等が見董の知つてゐる主なものであらう。故に本教材では之等の中から題材を求めて表現させるのである。又紀元節當日の町の情景を畫かせるなどもよい。

「ウタノホン」の「きげん節」に連絡をとつて指導する。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指導** 1 教科書の本圖は紀元節の日多數の人が神社參拜に出かけてゐる情景を畫いたもので、すがすがしい神社の有様や、團體でなく個人個人が思ひ思ひに參拜に行くのであるが、しかもそれが全體として秩序正しくなつて居り、敬虔な気持ちがよく表はれてゐることに注意させる。

參考圖は紀元節の日に見た馬上の軍人と、神職とを畫いたものである。

2 教科書を鑑賞させ、紀元節の日に見聞したことに就いて問答し、その情景を思ひ出させ、それを畫くにはどんな場面を如何に表現したらよいかを考へさせ、想の纏つたところで任意に畫かせる。

**備考** 1 紀元節は我が國繁榮の記念日であるから、一度は之を描寫題材として扱ひ、以つて國民的精神の涵養に資し度いといふ意味で採用したのである。併し紀元節は描寫題材として必ずしも扱ひ易いものではないから、之が指導に當つては、思想の誘導整理に力め、着想に對する暗示を與へ、表現場面の捉へ方に就いて十分な指導をしなければならない。

2 本教材では嚴肅な場面を畫くやうなことも起るであらう。従つてさう言ふ場合の描寫態度も嚴肅でなければならないが、一面表現そのものは生氣に満ちた愉快なものでなければならない。この邊の呼吸には指導上工夫を要する。

## 17. さうがん鏡

思想的表現 二時限

**要旨** 中厚紙を用ひて双眼鏡を作らせ、圓壘形の作り方を知らせ、立體構成の力と工夫考案の力を養ふ。

本教材の双眼鏡はレンズを用ひた本物の双眼鏡ではなく、形だけが双眼鏡に似てゐる模型である。併し内外二箇の圓壘形が自由に抜き差し出来るやうにすること、やがてはそれが本物の双眼鏡に發展して行く可能性のあること等の點から見る時は、一種の機械教材と見ることも出来るものである。

これ迄に中厚紙を用ひて立體構成をさせた教材は少なくなつたが、それ等の多くは直線的平面的の構成要素から成つたものであつたが、本教材は圓壘を主要構成要素とする點に新しい境地があるのである。

本教材は思想的表現をさせることになつてゐるが、圓壘形の作り方其他全然兒童の工夫にまかせることの出来ない部分も相當にあつて、模作的要素の幾分はいつて來ることは已むを得ないが、圓壘の長さや大きさ、つなぎの工作、裝飾等なるべく兒童の工夫に訴へて、思想的に表現させる分量が多くなるやう指導上留意しなければならない。

**準備** 工具 唐鋏・ものさし

材 料 中厚紙の色紙（羅紗紙の如きもの）・色紙・セロハン・鉛筆・糊・糊下紙

其他 エノホン掛圖・参考として實物の双眼鏡

**指導** 1 教科書本圖の右は双眼鏡の出來上り、左は中へ入れる筒だけを取出して示したものである。

参考圖は本圖に示した双眼鏡を作る材料を示したもので、1は双眼鏡の外側の圓壘を作る材料で、大體二重になる位までぐるぐる巻いて、糊を用ひてかためるのである。教科書に示したものは鼠色の羅紗紙で作つてある。2は内側に入れる圓壘を作る材料で、これも大體二重になる位までぐるぐる巻き、外側の筒に入れて見て自由に抜き差し出来る大きさにして、糊を用ひてかためるのである。教科書に示したものは黄土色の羅紗紙で作つてある。以上は何れも二箇づつを要する。3は外側の圓壘をつなぎにする材料で、切込の所から二つに分けて本圖に示す如く外側の圓壘に貼る。4は緑の色紙、5は赤の色紙で、外筒の裝飾に用ひるのである。6は内側の筒の端に貼つてレンズの意味を現はすセロハンである。周囲のぎざぎざの切込は糊代になる部分である。

2 エノホン掛圖は種々の實物の双眼鏡の寫眞で、實物を得られない場合の爲に示したものである。

3 實物の双眼鏡に就きその外形・構造・用途等の大略を知らせて興味を喚起し、教科書によつて模型の双眼鏡の作り方の大要を説明し、各自の工夫すべき要點につき要旨の項で示した諸點其他の指導をし、任意に作らせる。

**備考** 1 教科書の参考圖にある方眼は1cm目の方眼であるが、之は兒童が作る場合の大體の目安として示したものであるから、之を標準として任意の大きさに作らせてよいのである。

2 出來た作品は兒童の遊戯生活に使はせて一層興味を深め、漸次進んだ機能を有する双眼鏡及びこれに類するものを作り度いと慾求を起させるやうに導く。

## 18. おひな様 模作的表現・思想的表現 二時限

要旨 色紙ときびがらを用ひておひな様を作らせ、立體的・感覺的な表現練習をさせる。

本教材は次の「おせつく」と共に雛祭に關聯して採用した教材である。

本教材は工作法が比較的容易であり、且、教科書に工作の順序も示してあるのであるから、出来上りの標本を示し、工作法に就いての若干の補足的説明をなし、なるべく兒童の自力で作らせる。そして圖を讀む力、構成する力等が自ら養はれるやうにする。更に着物に模様をつけるとか、男雛には笏、女雛には扇を持たせるとか、各自の工夫による改作、又は附加工作もさせて、十分に創意を發表させる。

準備 工具 唐紙・ものさし

材料 色紙・きびがら・糊・糊下紙・クレヨン

その他 出来上り標本

指導 1 教科書の木圖は、色紙ときびがらとで作つたお雛様の出来上りを示したものである。色の取合せの美しさや形の美しさを味はせ、作り方の少しの變化で男雛らしくなつたり女雛らしくなつたりすることを理會させる。

參考圖は木圖に示した雛の作り方を示したのものである。即ち對角線の方に二つに折つた色紙二枚を1圖に示す如く少しずらして重ね、次に2圖・3圖の如く順に折る。此處迄は男雛も女雛も同じ作り

方である。次に男雛は中の段、女雛は下の段に示す如く、圖の順序に折る。男雛と女雛のちがひは袖の部分の折返しに角度がちがふだけである。參考圖の右上にあるのは、頭の作り方を示したもので、その左は男雛、右は女雛で、共に適當の長さに切つたきびがらに黒い色紙で冠や髪を作つて糊で貼りつけたものである。頭が出来たら前に作つた着物の中に挿し込んで仕上げるのである。

2 雛の着物は必ずしも二枚の色紙で作るとは限らない。三枚四枚重ねて作つてもよい。本圖に示した女雛は三枚重ねて作つてある。何枚も重ねて作る場合は、初めに紙を二つ折りにしないで、對角線の方に二つに切つた三角形の紙を用ひてもよいのである。この邊の工作は兒童に工夫してやらせてよい。

3 教科書を見せ、出来上り標本と對照して作り方の大體を説明し、着物の作り方、頭の作り方、着物の裝飾、その他附加的の工作等各自の工夫すべき要點を知らせ、任意に作らせる。

備考 1 出来た作品は學校の適當な場所に飾つて、雛祭をすることなども面白い。或は家庭に持つて歸らせて、家の雛祭の時に他の雛と一しよに飾らせるもよい。

2 雛祭は女兒を中心にした行事であるが、まだ此の頃の兒童には男女によつて教材を別たなければならぬと云ふ程でない。

## 19. おせっく 思想的表現 一時限

**要旨** 雛の節供の情景を畫かせて、思想の發表をさせる。

三月三日の雛の節供は、昔から女兒の節供として家庭的に又社會的に重んぜられて來たものである。従つて兒童にも大きな關心を持たれるものである。本教材は前教材「おひな様」と共に此の傳統的な行事を扱ひ以つて國民的情操の醇化に資するのである。

前教材「おひな様」は節供の事前に扱ひ、本教材は事後に扱ふことを本體とする。而して本教材で兒童に畫かせる場面としては、雛の飾りつけをしてゐるところ、新しい雛を買つて喜んでゐるところ、雛段の有様、雛祭のときのお客様、雛祭がすんで雛をしまつてゐるところ等各自の家庭に於ける雛祭の當日及びその前後に於ける情景の中から、地方の情況、家庭の事情に應じて適當の場面を選んで畫かせるのである。雛祭が家庭で行はれない地方では、學校で雛祭をしてそれを畫かせるもよい。

「うたのほん」の「ひな祭」と關聯を保つて指導する。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指導** 1 教科書の本圖は一年間仕舞つておいたお雛様を取出して、お母さんと子供達が之を飾つてゐるところの情景を畫いたものである。參考圖は内裏雛・隨身・官女・囃子・仕丁などを個々に示したものである。

2 本教材の指導をするには、雛祭とはどう言ふものか、雛の飾りは何時したか、そのときの有様はどうであつたか、雛段の様子はどんなであつたか、雛にはどんなものがあるか、お客様のあつたときの有様はどうであつたか等、雛祭の當日及び前後に於ける諸種の情景を思ひ出させ、教科書を鑑賞させ、教科書の本圖と自分の家で雛を飾つたときの有様との異同、教科書の參考圖にある雛と自分の家の雛との異同等に就いて明かにし、各自如何なる場面を如何に畫くかを考へさせてから任意に畫かせる。

**備考** 1 本教材の參考として初等科第一學年鑑賞指導用掛圖治郎左衛門雛を利用するもよい。

2 三月三日の上巳の節供は古來五節供の一として重要視せられ、雛の節供・桃の節供等とも呼ばれ、女兒のために雛を飾り、菱餅・白酒・桃の花等を供する習はしが廣く行はれて居り、雛祭とも言はれてゐる。

3 雛段の飾り方は時代により地方によつて異なつてゐるやうであるが、上の段から内裏雛・三人官女・五人囃子・隨身・仕丁の順に飾り、之にぼんぼり・櫻橘の樹・家具調度等を添へて飾るのが普通である。又所謂雛人形の外に普通の兒童玩具としての人形其の他を共に飾ることも少くない。



## 20. 勇ましい 兵たい 思想的表現 一時限

**要旨** 兵隊が活動してゐる情景を畫かせて、思想發表の練習をさせ、兵隊に對する感謝の念を持たせ、國防思想の涵養に資する。

本教材は陸軍記念日に關聯して採用したもので、前學年の三月教材「兵タイナン」の發展したものである。尙、國防思想の涵養と言ふ點からは、前學年の五月教材「グンカン」「スキヘイナン」本學年の五月教材「海のせんさう」「軍かん」等とも關聯を有するものである。

他教科科目との關聯に於いては、「ヨイヨドモ」の十月教材「兵タイナンへ」一月教材「天皇陛下」二月教材「キゲン節」「日本ノ國」、「うたのほん」の十二月教材「おもちやの戦車」一月教材「兵たいさん」二月教材「日本」等と内面的に關係を保つて指導すべきである。

本教材は描寫上から見るときは活動的な人物描寫の教材であるから、これ迄に學んだ人物描寫の教材の發展として指導しなければならない。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙・參考品

**指導** 1 教科書の本圖は兵隊が國旗を先頭にして畫の野を進軍してゐる有様を畫いたものである。此の圖を通して皇軍が大陸で活躍してゐる光景を想像させる。

參考圖の上は日本軍が六頭の馬で野砲を運んでゐる有様、下は騎兵が敵に向つて突進してゐる情況を

畫いたものである。此所に示したのは一つの野砲、二人の騎兵であるが、これを以つて大部隊の行動を想像させるがよい。

2 教科書を鑑賞させ、一年のエノホン掛圖の兵隊や各種の參考品等によつて兵隊の服裝、各種の兵器、軍隊の種々な活動等を知らせ、又他教科科目の教科書にあつた兵隊に關する挿繪や、繪本や映畫などで見た兵隊の活躍してゐる有様などを思ひ起させて、勇ましい兵隊と言ふ題名にふさはしい種々の場面を想像させ、如何なる場面を如何に畫くべきかを考へさせ、題名にふさはしい強く關連な表現をさせる。

**備考** 1 本教材に於ける表現は、他で見たことのあるものをそのまま記憶して居つて再現する態度をとらず、これ迄に得た記憶や觀念をもとにし、種々の場面を想像して畫面を構成するやう導くがよい。

2 兒童の表現に對し干渉し過ぎるのはよくないが、兒童が表現しようとして、しかも表現が出来ないでゐるやうな場合には適當な暗示を與へるとか、表現の緒をつけてやるとか、又あまり不自然な表現をしてゐるものには適當な反省を促すとか、指導の契機を巧に摺むことが、本教材の如きに於いては特に必要である。

## 21. 動ぶつ 思想的表現 二時限

要旨 色紙を切つたり、曲げたり、貼つたりして動物を作らせ、構成力と創造力とを養ふ。

動物は児童の好んで作るものであるが、その作り方には材料の上から見ても工作法の上から見ても甚だ種類が多い。本教材に採用したものは、簡単な材料を用ひ比較的良好に動物の特徴を捉へた表現をなし得るもので、一度その工作法を理會すれば、児童の力でもよく各種の動物の形を構成することが出来て、構成力、創造力等を養ふに適したものである。

本教材は二時限に一つだけ作らせるのではなく、二つか三つ位作らせるのである。而して本教材の工作法は只教科書を見せただけ、只児童に工夫させただけでは理會させることが困難であるから、初めの一つは豫備的な意味に於いて模作させ、あとの一つか三つを思想的に表現させ、終局に於いて思想的表現の狙ふ陶冶目的を達成するのである。

本教材は動物の形態を捉へて表現する點から見て、前學年十月教材の「ドウブツ」本學年七月教材の「どうぶつ」等と關聯を保つて指導する。

準備 工具 唐鋏・ものさし・クリップ又は小形の物干挟

材料 色紙・中厚紙・クレヨン・糊・糊下紙

その他 半成及び出来上りの標本

指導 1 教科書の本圖は色紙で作つた動物の作例で、上から牛・獅子・狐を示したものである。

参考圖の上は左から順に熊の作り方の順序を示したもので、右下は熊の出来上りである。左下は二匹の海老の作例で、圓形に切つた中厚紙の上に載せて、皿に載せた感じを出したものである。

2 動物の作り方は、参考圖に示す如く一枚の色紙を折目をつけずに二つに曲げ、次に頭と頸・四肢・胴の部分を分つための切込みを、作らんとする動物の形に應じてつけ、次に参考圖上の中央に示す如く、頭と頸になる部分を適當に切りつめ、頭頸の部分と胴の部分とを上右の圖に示す如く曲げて貼りつけ、尾・耳其他の部分を別の色紙で作つて貼りつけ、最後に肢の先端を少し曲げて中厚紙で作つた臺に貼りつけて仕上げるのである。尙、眼鼻其他の部分をクレヨンで畫いて現はすことなどもよい。海老の工作法も大體同様である。

3 本教材の指導をするには、教科書を見せ、半成及び出来上り標本と、教科書の参考圖とを對照して動物の工作法を知らせ、初めの一つは模作させて工作法の要領をのみ込ませ、次に好きな動物を選んで各自に工夫して作らせる。

備考 1 各動物の感じをよく捉へて表現させることに力める。尙、獸類の肢は實際のものよりも太めに作る。さうしないと先端を臺紙に貼りつけても、つぶれてしまつてよく立たないことがある。

2 如何なる教材に就いても必要なことではあるが、特に本教材に於いては教師は種々の動物に就いて数回の試作をなし、十分に工作のこつを會得してから指導に臨むべきである。

## 22. 學げいくわい 思想的表現 一時限

**要旨** 學藝會の情景を畫かせて、集團的な人物を關係的に表現する練習をさせる。

學藝會は學校行事中の重要なもので、兒童は相當前から力一ぱいの準備や練習をなし、全能力をつくして自己表現をなし、全員が一體となり協同して事に當るもので、演ずる者も見る者も大きな期待と興味をもつものである。本教材はこの學藝會から取材して人物表現の練習をさせるのであるが、學藝會には綴り方の朗讀の如く個人の活動が中心となる場面もあるが、本教材ではなるべく多くの人物が出て、關係的な活動をしてゐる場面を選んで畫かせるのである。尙、描寫する場面は學藝會當日の壇上だけでなく準備してゐる場面などを選んで畫かせてもよい。

本教材は學藝會のあつた直後に指導する。

**準備** クレヨン・鉛筆・畫用紙

**指導** 1 教科書の本圖は學藝會で兒童が合唱をしてゐるところを畫いたものである。

參考圖は描寫の參考として學藝會の種々の場面の寫真を示したもので、左上は鳥居の畫いてある背景の前で兒童等が對話をしてゐるところ、左下は大國主命と因幡の白兔、右はかちかち山の兎と狸に扮してゐる兒童を示したものである。

2 本教材の指導には、學藝會で見たり聞いたりしたことでは何か一番面白かつたか、その時の有様は

どうであつたか等を想ひ起させ、それ等のうち繪に畫くにはどんな場面がよいか、それを如何に畫き現はしたらよいかに就いて想を練らせ、教科書を見せて表現の參考にさせ、任意に畫かせる。

3 人物各部の割合、人物の關係的表現に就いては、兒童各自の表現に即し、その兒童の表現力に応じて個別的な指導をする。

**備考** 1 本教材は學藝會のあつた直後に指導するのであるから、學藝會を催す時期がらちがつてゐる學校では便宜教材を繰替へて指導しなければならない。

2 學藝會そのものの指導は、それぞれの教科の立場に於いてなすべきであるが、本教材を通して舞臺の裝置や、出演者の服裝等に就いて此の程度の兒童に相應した指導をなし、あまりごてごてした裝置や服裝よりは、單純で上品なものの方がよいことを理會させる。

k131.71-4-49

發行所 日本書籍株式會社

印刷所 凸版印刷株式會社  
東京市下谷區二長町二番地

印刷者 井上源之丞  
凸版印刷株式會社代表者  
東京市下谷區二長町一番地



昭和十六年十一月七日  
文部省検査済

代表者 大橋光吉  
發行者 日本書籍株式會社  
翻刻者 日本書籍株式會社  
東京市小石川區久堅町百八番地 31

著作權所有 發行兼 文部省

昭和十六年十一月三十日翻刻發行  
昭和十六年十月三十一日翻刻印刷  
昭和十六年十月二十八日印刷  
定價金拾四錢  
エノホシ 四教師用

K131.71-4-49

發行所 日本書籍株式會社

印刷所 凸版印刷株式會社  
東京市下谷區二長町一番地

印刷者 井上源之丞  
凸版印刷株式會社代表者  
東京市下谷區二長町一番地

代表者 大橋光吉  
翻發行者 日本書籍株式會社  
東京市小石川區久堅町百八番地 31

昭和十六年十一月七日  
文部省検査済



著作權所有 發行者 文部省

昭和十六年十一月三十日翻刻發行  
昭和十六年十月三十一日翻刻印刷  
昭和十六年十月三十一日發行  
昭和十六年十月二十八日印刷  
エノホン 四教師用

◎ 定價 金拾四錢

